Newsletter　URL:www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元　社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル８F　Phone:03.3516.8922

Spring 2008 No.43

日本と身近なモンゴル ～子どもたちは今～

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下SCJ）は、日本人駐在員を現地に派遣し、モンゴルにおける事業を展開しています。市場経済化の結果、目まぐるしく変わるモンゴル社会で子どもたちが直面する問題に取り組んでいます。



拡がる格差：モンゴル社会の現状

「拡がる格差」ーモンゴル社会の今を象徴する言葉です。高級外車に乗り、デパートで東京と変わらない物価で買い物をする人々。その横では、擦り切れた服を着た子どもが物乞いをしています。私立のインターナショナルスクールに通う子ども。一方で、障がい者保障の破綻から障がいが軽度でも、学校に通えない子どもがいます。同国は、1990年に半世紀以上続いた社会主義から民主主義への転換を図り、それ以降、競争ベースの市場経済化を断行してきました。その結果、一部の人々の生活は豊かになりましたが、上述のような「持てるもの」・「持たざるもの」の「格差」が急激に拡がっています。そして、一番のしわ寄せを受けているのは子どもたちなのです。

路上に居場所を求める子どもたち

この「格差」を最も明確に体現している存在、それは路上に居場所を求めるストリートチルドレンです。彼らの多くは、貧困に起因する家庭崩壊、家庭内暴力、親のアルコール中毒などに耐え切れず、路上で生活を送る事を余儀なくされている子どもたちです。マイナス30度にまで凍てつく長い冬期には、マンホールやアパートの通路で暖を取り、食堂の残り物や物乞いで日々の生活を凌いでいます。路上というむき出しの環境で生活しているため、暴力、搾取、病気、薬物乱用といった危険に日常的に晒されています。セーブ・ザ・チルドレン（以下SC）としてのモンゴルでの活動は10年以上にわたり、ストリートチルドレンの支援にいち早く乗り出しました。2001年から、彼らの衣食住といった生活支援、教育・保健衛生といった生活指導、またカウンセリングを通した心のケアに注力しています。現在、彼らの数は、ピーク時に比べ減少しましたが、いまだに200～300人近くの子どもが路上での生活を送っています。SCJは、ストリートチルドレンへの生活支援、生活指導、心のケアを継続する一方、彼らが家族との生活を再スタートできるよう、家族との再会支援も展開しています。更には予備軍と考えられている地方から移住してきた人々が多く住む低所得者居住区の子どもたち、またその家族へも支援を展開し、問題の防止活動にも力を入れています。



障がいを抱える子どもたち

モンゴルでは障がいを抱える子どもたちもまた、健常児との「格差」という問題に直面しています。社会主義体制の崩壊は、一定程度保障されてきた障がい児の福祉の質の大幅な低下を招き、障がい児教育を担ってきた専門学校もほとんどが閉鎖に追い込まれました。モンゴルでは障がい児が健常児と一緒の環境で学ぶ統合教育が一般的ではないことから、教育機会を閉ざされているケースが多くなってきており、特に地方で顕著です。SCJは、障がい児の教育機会の改善のため、インフラ面及びソフト面での整備に注力していきます。インフラ面での支援としては、車椅子や四肢障がい児の通学を促進するため、学校の校舎玄関及びトイレをバリアフリータイプへ改修する工事を予定しています。ソフト面では、学校での統合教育を実践するための教員研修を展開しており、特に障がい児の教育機会へのアクセスが非常に限られている地方の学校教員に焦点を当てています。また、今後は、リハビリテーションを始めとした障がい児の身体面・精神面でのサポート、さらに障がい児の権利向上を呼びかける啓発活動も展開していく予定です。

モンゴルの子どもたちが直面している問題

人権遵守を呼びかける市民社会も着実に育ってきてはいますが、子どもの権利の保障を支える世論・制度はまだまだ脆弱です。特に公教育の現場での生徒（＝子ども）に対する体罰、不正な金銭の徴収、差別は、同国教育文化科学省及び国際機関も非常に問題視している課題です。SCは、このような問題は子どもの権利の深刻な侵害であるとして、法律で禁止すべく、2005年半ばから1年半にわたる教育法改正キャンペーンを主導しました。その結果、2006年12月に教育法が改正されるに至り、現在では公教育現場での生徒に対する暴力、不正な金銭の徴収、差別は違法行為となっています。しかし、実際にこの改正法が遵守されているとは言い難く、いまだに深刻な問題です。SCJは、この改正教育法が守られ、一人でも多くの生徒が安全で公平な学習環境で学んでいけるよう取り組んでいきます。

また、首都への人口及び資源の集中により、都市部との教育の質の格差が非常に懸念されている地方の遊牧民の子どもや少数民族の子ども、貧困層の子どもを対象とした教育の権利実現及び福祉充実のための活動も展開していく予定です。



子どもの権利ってなに？教えて！

コラム
「子どもの権利」

子どもたちを苦しめている問題は、国内外を問わず山積しています。守られるべき「子どもの権利」はどこに！？セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）は、「子どもの権利」の理解・推進を目指し、情報の発信源となる「チャイルド・ライツ・センター」を開設しています。２回目となる本連載コラムはこの流れを汲むもので、SCJが活動の指針とする国連「子どもの権利条約」を取り上げ、条項がどのような権利を示しているのかわかりやすく解説していきます。その際、SCJの支援活動、現代の子どもの問題、最新の子どもの政策などを織り交ぜ、お伝えしてまいります。ご期待ください。

第2回「格差がもたらす新たな問題」

すべての子どもは、健全な発達のため相当な生活水準を受ける権利（子どもの権利条約27条）を有しています。親、保護者、国、そして国際社会は、この権利を保障する責任があります。しかし、現実はどうでしょう。日本、そして世界でこの権利は本当に保障されているでしょうか？今、世界中で格差の問題が顕在化しています。

日本では、所得の少ない母子家庭などで格差問題が生まれています。離婚した相手からの養育費滞納や行政による児童扶養手当の削減により教材購入を控えざるを得ない、塾や習い事を削らざるを得なかったなど具体的苦悩が明らかになっています。

世界に目を向ければ、格差の問題はさらに深刻です。国連が2015年までに達成すると掲げた目標は、その達成の目処が立っていません。富の集中がある一方、飢餓の撲滅や乳幼児死亡率の削減、初等教育をすべての子どもに提供するという目標も達成が厳しい状況にあります。

このように、格差に起因する子どもへの悪影響が起こっていますが、飢餓の撲滅など子どもの「相当な生活水準」は絶対に確保されなければなりません。そして、教育への影響も注視されるべきです。教育への格差拡大は、世代を超え負の連鎖を引き起こすからです。予算確保が難しい開発途上国に対しては、国際社会が支援しなければなりません。

私たちセーブ・ザ・チルドレンは、皆さんと共にRewrite the Futureキャンペーンを展開しています。すべての子どもへ教育が提供されるよう直接支援を実施しています。

DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

ストリートチルドレンの暮らしって？知っているようで知らないその生活。

帰る所がなく、学校へも行けない子どもたち。あるいは、家があっても路上で日銭をかせいで暮らす子どもたち。彼らが送っている路上生活とはどのようなものなのでしょうか？SCJが活動を始めたモンゴルを例にして紹介します。自分や自分の大切な人や子どもに置き換えて、ストリートチルドレンの生活を感じてみましょう。

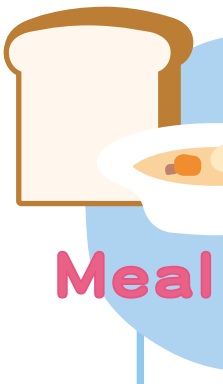




モンゴルのストリートチルドレン

下記の情報は、ストリートチルドレンのためのドロップインセンター「SC子どもセンター」に通う、あるストリートチルドレンへのインタビューを基に、平均的な彼らの生活をまとめたものです。

＊「SC子どもセンター」所長のズラ（Zulaa）が協力してくれました。



食事は？

1日2食(昼と夜)しか食べられないことが日常です。ほとんどの子どもが朝食を取ることができません。レストランの残りものを食べたりもします。



友だちは？

ストリートチルドレン同士は、お互いの顔は知っていても、友だちになることは少ないようです。また、路上生活をしていない子どもの知り合いもいますが、友だちと呼べるほど近い関係にはない場合がほとんどです。一部の子どもたちはグループ化し、いっしょに行動することもあります。



何で遊ぶ？

路上で遊びます。遊び仲間は、他のストリートチルドレン。路上で追いかけっこをしたり、レスリングをしたり、トランプで遊ぶこともあります。マイナス30度以下になる寒くて長い冬には路上で遊ぶことが厳しいため、オーナーと交渉し格安でゲームセンターやビリヤード場に入れてもらうようです。



寝る場所は？

暖房用のパイプが敷かれているマンホールの中やアパートの通路・踊り場、ゴミ集積所などで寝ます。パイプが熱くなりすぎて火傷をしたり、アパートの通路では夜中に管理人・守衛に追い出され、殴られることもあります。また、酔っ払いにからまれたりすることも。安全・快適とは程遠く、常に危険と隣合わせの生活です。



日中にすることは？

遊んだり、物乞いしたり、小銭稼ぎの仕事をすることが多いようです。仕事の多くは、洗車や、お金持ちの車を駐車スペースで見張ったり、空き缶や空き瓶を集めて売ったりすることです。中には、お金や貴重品を盗んだり、盗品を売って生活する子どももいます。



子どもたちの暮らしを取り戻すために

SCJのストリートチルドレン支援の最終目標は、彼らが家族という単位の中で継続して安定的な暮らしを取り戻すことです。モンゴルでは日本人駐在員を派遣し、ストリートチルドレンへの生活支援・生活指導、アウトリーチ活動（ストリートチルドレンの保護などソーシャルワーカーによるサポート活動）、家族との再会支援、ストリートチルドレンを支援する子ども保護員の能力向上、など包括的なサポートを行っています。





選べる支援方法（SCサポート、チャイルド・リンク、一般寄付）

世界中の子どもたちへ！
SCサポート
月々1,500円/2,000円/3,000円



セーブ・ザ・チルドレンの活動全体をサポート。お申込みいただくと・・・“世界各国の子どもたちのリアルな様子が分かる”レポートが年２回届きます。
そのほかにも
■ニュースレター（年４回）
■グリーティングカード（年１回）
）が届きます。

地域を選べる！
チャイルド・リンク
月々3,500円/4,500円



アジア、アフリカ、ラテンアメリカから地域を選んでサポート。お申込みいただくと・・・“ご希望地域の「代表の子ども」を通じて、現地の支援状況が分かる”レポートが年２回届きます。
そのほかにも
■ニュースレター（年４回）
■グリーティングカード（年１回）
）が届きます。

いつでも気軽に！ 一般寄付

１円から！いくらでも結構です。
振込先：郵便振替口座 00900-1-120760　加入者名：セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

（税控除について）当団体へのご寄付は、一定の要件の下に法人税及び所得税の控除対象となります。また、遺贈及び相続財産のご寄付については、相続税控除の対象となります。詳しくは最寄りの税務署にお問い合わせください。

お申込み・サポートの追加・金額の変更は、いますぐこちらまで！
0120-317-502（平日9:30～18:00）

もちろん！WEBでもお申込みいただけます。
セーブ　検索
www.savechildren.or.jp

Save the Children JAPAN

From SCJ



上田雅子（うえだまさこ）
立命館大学 国際関係学部
英国バース大学 修士課程修了
2007年よりセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン勤務。現在モンゴルに駐在。

モンゴルレポート

昨年7月にモンゴルに赴任した駐在員の上田スタッフから、現地についてのレポートが届きました。

モンゴルでの生活は日本と比べてどうですか?

私が生活している首都ウランバートルでは、基本的に生活に必要なものは何でも手に入ります。街にはロシア、東欧、韓国製品が溢れ、各国料理を振舞うレストランもあるため、生活上不便を感じたことはありません。しかし、過多に輸入に頼っている経済構造なので、物価は非常に高いものとなっています。治安に関しては、スリやお酒に絡む暴力を除けば、ウランバートルは比較的安全な都市だといえます。近年ほとんどのモンゴル人が口を揃えて問題視しているのが首都を覆うスモッグです。発電所や増え続ける車両、暖房用の石炭・薪からの排気ガスが原因として挙げられ、多くの人々が咳やのど・目の痛みを訴えています。

相撲以外に日本の文化で人気のものはありますか?

日本語学習が非常に盛んです。モンゴルに赴任してから、日本での留学経験があり日本語を流暢に操る人や、留学を志望して日本語学習に熱を入れる人に多く出会いました。首都に日本政府の支援で建てられた交流施設があり、そこで無料で開設している日本語講座も非常に人気が高いと聞いています。今後、日本とモンゴルの経済・文化交流がますます進むと見込まれる中、通訳を目指して学習している学生も多くいると聞いています。

日常の生活でストリートチルドレンを目にしたり、接触することはありますか?

ウランバートル市内中心部の大通りで、一目で外国人と判別できる西洋人などに物乞いをしている子どもや道端で歌を歌い小銭を集めている子どもをよく見かけます。ストリートチルドレンの中には、小銭を集めるのに必死のあまり、拒否されると暴力的になるケースも報告されており、私自身も10歳にもならない子どもが泣きじゃくり、外国人客にフォークを振り向けている姿を目撃しました。これは大事には至らずに済んだのですが、子どもをそこまで追い詰めている状況に非常に胸が痛くなりました。

モンゴルにおけるSCの歴史・知名度。

SCの名前を知らない人は非常に少ないのではないでしょうか。数々の功績は同国教育文化科学省及び社会福祉労働省から非常に高く評価されています。例えば、1年半にものぼる全国的キャンペーンを率い、2006年12月に学校での子どもに対する体罰、不正、差別を禁止する改正教育法の採択に主導的な役割を果たしたのはSCです。更に、ストリートチルドレンをその家族も含め包括的に支援していくため、地域住民参加型の児童施設の実践を率先したのもSCです。この様に、モンゴルの子どもの保護及び社会福祉分野の発展に中心的な役割を果たしてきたSCモンゴル事務所で働けることを非常に嬉しく思っています。



パートナーニュース Partnership

セーブ・ザ・チルドレンの活動に賛同し、ご支援ご協力いただいている企業は、積極的に世界に目を向けて社会貢献に取り組む企業です。その活動の一端をご紹介します。

人から人への心で世界の子どもたちを支援
●株式会社ガリバーインターナショナル



中古車買取・販売の株式会社ガリバーインターナショナルからは、ネパール南東部における教育環境改善のための様々な活動をご支援頂いています。公立小学校の校舎建設に加え、入学促進のためのキャンペーンや保護者研修などのソフト事業も実施することで、総合的な教育環境の向上を目指します。

詳細は
http://www.glv.co.jp/company/info/environment.html

幸せの輪を子どもたちへ
●プリモ・ジャパン株式会社

ブライダルリング専門店を運営するプリモ・ジャパン株式会社は、人材教育分野に関連した社会貢献活動を実施しています。同社のオリジナルブランドである「アイプリモ」からはブライダルリングの内側に留める「プロミスダイヤモンド」の収益の一部を、ベトナム山岳地域の幼稚園建設および子育て環境改善事業にご支援頂いています。



詳細は
http://www.primojapan.co.jp/company/csr.html

モンゴルの子どもが撮影した子どもの写真展を開催しました



2月16日～28日に表参道ヒルズ（東京）にてモンゴルの現状を子どもの視点で切り取った、『モンゴルの子どもが撮影した子どもの写真展“WE WANT A HAPPY AND SAFE FAMILY”』をSCJの協賛企業でもある株式会社イデアインターナショナルのご協力のもと開催しました。大変ご好評を頂いたこの写真展は、4月に行われるワールド チルドレン フェスティバルでも数点展示いたします。



ワールド チルドレン フェスティバル 2008

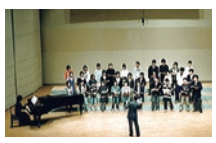
※イベント時間詳細は予告なく変更する場合がございます。

オープニングステージ
12：00～



NHKみんなのうた（4月&5月）のCRYSTALSがオープニングを飾ります。そして、世界の子どもたちの「未来」と「笑顔」をテーマにした**ポストカードコンテストの表彰式**を開催。オープニングの最後には**F-BLOOD藤井フミヤwith藤井尚之**が登場。子どもたちに向けたメッセージをお届けします。

子どもたちが奏でる歌のステージ！
15：00～



下田青少年合唱団の子どもたちによるコーラスステージ。

ウルトラマンガイアがステージに登場！
①13：45～ ②16：10～

世界の子どもたちを応援するウルトラマンガイアと握手ができるよ！

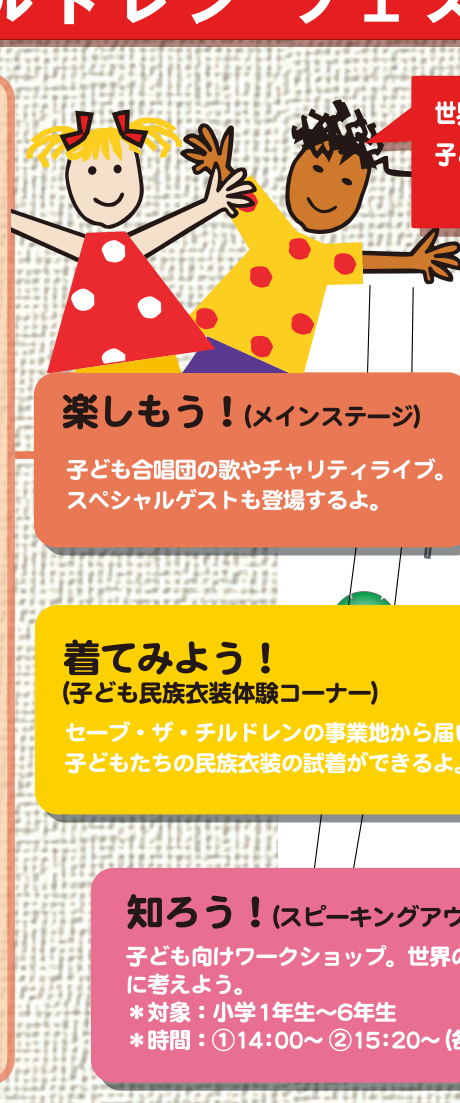


©1998 円谷プロ

イブニングライブ
17：00～



実力派ヒーリングボイスシンガー**堀澤麻衣子**によるスペシャルライブ。子どもたちへの想いを込めた美しい調べをお楽しみください。



スピーキングアウト参加者募集中（定員あり／先着順）

電話かファックス、Eメールで、氏名、学年、住所、電話番号、保護者氏名、参加希望時間を明記の上、お申込みください。 /担当：津田
TEL：**03-3516-8932** FAX：**03-3516-8923**
Eメール：speakingout@savechildren.or.jp

入場無料 **2008/4/2（Wed）**
12:00～19:00（予定）六本木ヒルズアリーナ
主催：社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
協力：森ビル株式会社、テレビ朝日／後援：外務省、JICA地球ひろば
協賛：高松商事株式会社、株式会社小森コーポレーション